

神奈川県キャンプ協会 (PACK)

Prefectural Association of Camping, Kanagawa

NEWS

No.7

from : North

East

West

South

平成25年 1月15日発行

年頭にあって

神奈川県キャンプ協会
会長 小林 新治郎



年頭(2013年)にあたり、会員みなさん、関係各位の方々に改めて良い年となることを心よりお祈り申し上げます。

日本キャンプ協会 (N C A J) は公益社団法人化され1年を迎えようとしています。神奈川県キャンプ協会 (P A C K) は今までどおり指導者養成講座や事業の推進にあたりN C A Jと連携をとりながら積極的に支援活動もすすめていきたいと願っています。

私ごとですが、昭和37年文部省(当時)の主催で全国都道府県から各2名が選出され和歌山県潮岬で指導者養成(4泊5日のキャンプ合宿)が開催されました。私は神奈川県代表として参加し、青少年にとって自然体験活動が必要不可欠な教育材であることを学び、それ以来50数年にわたり野外活動を生活の重要な一環として実践してきました。

人間の知恵や心の育成の原点は集団や個々人による自然体験そのものであると確信しています。社会体験活動が少なくなっている現代の青少年にとって、自然は全ての領域にわたり無限の可能性を有する宝庫です。会員みなさんの実践力と資質の向上を図ることを目的とする当協会の事業にリーダーとして積極的に参加・協力いただけることを念じ、また強く期待するところであります。

Contents

年頭にあって	1	《平成24年度内の今後の事業予定》	4
美しい紅葉の森で、 「NCAJキャンプインストラクター養成講習会」 開催される	2	PACK(神奈川県キャンプ協会)の集い 『市民活動における“野外活動の現代的意義” ～神奈川県キャンプ協会の活性化に向けて～』 開催趣旨に寄せて	4
NCAJキャンプインストラクター養成講座活動計画	3		

美しい紅葉の森で、 「NCAJキャンプインストラクター養成講習会」 開催される

神奈川県キャンプ協会(PACK) 副会長 高野新平

公益財団法人・日本キャンプ協会(NCAJ)公認の指導者養成事業である「キャンプインストラクター養成講習会」を平成24年11月23日(金・祝)～25日(日)、神奈川県立愛川ふれあいの村で開催いたしました。

好天候に恵まれ、目を見張るような美しい錦秋の「ふれあいの森」の中で、関東近県(千葉県、山梨県、埼玉県、東京都)からの受講生並びに企画されたBUCへの参加者を得て、熱意あふれるアウトドア愛好家が集い2泊3日の講習会を堪能された様子でした。

講習会の活動計画は別紙の通りです。初日、県内外から受付に集まってきた参加者は、少々緊張気味でしたが愛川ふれあいの森の紅葉の美しさに出会った瞬間心がぱっと晴れ渡ったのか、自然と笑顔がこぼれ緊張がほぐれ交流が始まりました、美しい自然の持つアイスブレイキング力の素晴らしさを強く感じました。

入村式、開講式と進み、始めの講義は「野外活動の意義と指導者の役割」、講師は鈴木秀雄(敬称略)(D1)。昼食をはさみ、第2番目の講義は「野外活動の施設運営と指導者の心構え」、講師は愛川ふれあいの村所長の杉浦俊之氏(D1)。実技の1「野外活動(アクティビティー)」、講師は小林新治朗(D1)。実技の2「野外炊飯」、講師は池谷潤(D1)、キャンプの定番はということでカレーライスづくりに各班は腕を競いました、優劣つけがたい大変美味しいカレーライスが出来ました。講義の3「キャンプファイヤーについて」、講師は鈴木秀雄(D1)、概要はキャンプファイヤーを創り出すための基本的な考え方、スキッツとスタントの違いと表現法の実際等。実技の3「キャンプファイヤー」、講師は高橋良寿(D1)、天候の関係で室内

でのキャンドルファイヤーを実施、各班が繰り出す楽しいソング、スキッツ、その間をつなぐ芸達者なエールマスタ(高橋良寿)のスタントとの組み合わせで楽しいファイヤーが出来ました。その後のミーティングでは、参加者各人からこれまでどのような活動をされてこられたかについてPRしてもらい、グループに分かれ、グループリーダーのもと、自身のこれまでの活動からの課題や問題点について話しあい、リーダーからアドバイスや励ましを受けました。

第2日目:講義の4「野外に学び、野外に遊ぶ」、講師は高野新平(D1)、概要は、人間と自然との関係、環境と文明との関係等。講義の5・実技の4、「野外活動で活用する器具類とその実際」、講師は池谷潤(D1)、概要は、キャンプの基本装備、キャンプの生活技術、ロープワーク等。講義の6「キャンプで求められる生活技術と活動技術」、講師は高橋良寿(D1)、概要は、自然が持つ機能を理解してキャンプ生活を行う、五感を使う・磨く等。実技の5「野外を楽しむ・I」、講師は藤野和子(D1)、概要は、様々なアクティビティーについて講義、ウォークラリーの実習等。実技の6「実習・野外を楽しむ・II」、講師は高橋良寿(D1)、概要は、森の実態を知るための動植物観察等。その後のミーティングでは、参加者各人からインストラクターとしてこれからどのような活動を目指すのか、抱負や夢を語ってもらいました。

第3日目:講義の7「野外活動の指導と指導の実際」、講師は鈴木秀雄(D1)、概要は、野外活動のねらい、野外活動の内容、野外活動の指導とその姿勢等。講義の8・実技の7「野外活動の安全・いざという時の救急救護の実際」、講師は鈴木秀雄(D1)、概要は、野外活動の安全"リスクスクリーニング"、救命手当と応急手当、CPRとAED実演等。昼食後、閉講式、退村式を行い、鈴木秀雄(D1)による、NCAJインストラクターの検定と検定の総括を行い全員合格・笑顔で記念写真撮影、無事に講習を終了しました。

皆様のご協力に感謝申し上げます、有難うございました。

平成24年度神奈川県キャンプ協会(PACK)主催 NCAJキャンプインストラクター講習会受講生 及びBUC参加者の所感

- ◆スタートライに立つ事ができました。この講習では非常にたくさんのことを学ばせていただきました。いろいろな立場の方々と交流する事ができました。これから、新しい目線で自然と楽しく付き合っていきます。(男性・20代)
- ◆キャンプの講習という狭い範囲にとらわれず、広範な内容でたいへん勉強になりました。さらに学んで深めたい分野も明確になり、頭の整理もできました。(男性)
- ◆講習会に参加して、とても良い体験ができました。今まで出会うことの無かった野外活動の理論的裏づけを学ぶ事ができました。これからは、自分で活動する上での目標となると思います。2泊3日で野外活動の効果に実際に触れ、とても幸せな気持ちになりました。(男性・30代)
- ◆すばらしい3日間となりました。神奈川県キャンプ協会とのご縁に感謝します。野外活動の中で見落とししていた、楽しさを気付かせていただきました。それは仲間とのつながり、心のふれあいでした。実習の「ウォークラリー」の時に仲間と創った詞を感謝を込めておくりします。"この道を駆けて行きましょ。元氣よく!"(男性・30代)
- ◆今回、指導者になる立場として参加しました。自然との関わりをこんなに身近で学んだのは初めてです。さまざまな場面でコミュニケーションの大事さを実感しました。手遊びやウォークラリーなどを子供たちに教えたり、一緒に遊びたいモノがたくさん自分の中に入り込んできました。さらなるキャンプインストラクターの向上を目指し、仕事につなげたい。3日間で新しい仲間ができ、新しい情報を得て、新しい自然を目と肌で感じ取ることができました。すごく楽しかったです!またお会いしたいです。ありがとうございました。(女性・20代)

- ◆野外の活動を通して自然の理解やさまざまな体験をすることから、新たな発見、創造性を養うことへとつながっていくことを知りました。自己開示をすることで自分を知り、相手を知り人間の活動は何かを知る。・・・キャンプには日常での問題を解き明かすヒントを得ることができると感じました。(女性・20代)
- ◆アウトドアが大好きです。友達とキャンプによく行くので、今回受講しました。想像していたのと全然違い、明るく、楽しく講義を受け、同じ受講生とも話し合う事ができて、仲間が増えました。参加してよかったです。ありがとうございました。(男性・20代)
- ◆講習会に参加してコミュニケーションの取り方や、上の立場での指導法など、基礎を学ぶには最適な「ふれあい村」でした。それと他所にはない自然体験、野外炊事も貴重な体験ができました。楽しかったです。(男性・20代)
- ◆想像以上に質の高い、内容の濃い講習会でした。自然を理解することは、人間相互の理解をはかることでもあると教えられ、参加メンバー間の相互理解と交流も体感できた3日間でした。今回の体験をこれからの活動に活かしていきたいと思います。(男性)
- ◆正直、私は今回の2泊3日でテントの建て方や炊事などをして、テントに寝るものと思っていました。しかし、その期待はみごとに裏切られました。それは良い意味です。もちろん、テントの知識や技術は必要ですが本を見れば行えます。今回の講習では人間の中身が育った気がします。そして、さまざまな知識が身に付きました。ほんとに参加して良かった。(男性・20代)
- ◆組織キャンプを学ぶために参加しました。参加者が少ないことから、参加者相互の交流が図れて、とても良かったと思う。ここで実践したことを自分のまわりに展開していきたい。(男性・60代)
- ◆今回の講習では様々な分野での糸口を沢山いただきました。今後は、それぞれの事柄を学習して深めていきたいと思いました。嬉しい宿題を山ほどいただいた気分です。(男性・30代)

平成24年	11月23日 (金)	11月24日 (土)	11月25日 (日)
6:00		(7:00～	(7:00～
7:00		朝の集い	朝の集い (その後に身辺整理)
8:00		朝食	朝食
9:00	(9:30～	(8:50～	(8:50～
10:00	受付 (愛川ふれあいの村)	●野外に学び野外に遊ぶ	●野外活動の指導と指導の実際
11:00	集合	～人間と自然との関係の理解及び環	鈴木 (90分)
12:00	入村式・オリエンテーション	境と文明との関係を知る～	
13:00	開講式	高野 (90分)	
14:00	(11:00～	(10:30～ (90分)	(10:30～
15:00	●野外活動の意義 鈴木 (60分)	★野外活動で活用する用器具論とその	●★野外活動の安全・いざという時の
16:00	※野外活動の意義と指導者の役割	実際～ローワークを含む～池谷	救急救護の実際
17:00	(12:00～		鈴木 (90分)
18:00	昼食 (施設食堂)	(12:00～	(12:00～
19:00	(13:00～	昼食 (施設食堂)	(12:45～
20:00	●野外活動の施設運営と	(13:00～	閉講式・退村式
21:00	指導者の心構え 杉浦 (60分)	●★キャンプで求められる“生活技	(13:10～
22:00	※施設運営を通して見えてくる	術”と“活動技術”	●NCAJインストラクターの検定
	指導者に求められる心構えを	高橋 (120分)	および検定の総括
	纏 (ひもと) く		鈴木 (60分)
	(14:00～	(15:00～ (90分)	終了: 14:10 (予定)
	★野外活動 (アクティビティ)	★野外を楽しむ I	<u>(講師の敬称は略しています。)</u>
	小林 (90分)	～野外ゲームを含む～ 藤野 (高野)	
	※クラフト (天候等により展開)		
	(16:00～	(16:30～	
	★野外炊飯 池谷 (150分)	★野外を楽しむ II	
	※キャンプを楽しくする野外料理	～森の動態～ 高橋 (90分)	
	夕食・片付け・移動	(18:00～	
	(18:30～	夕食 (施設食堂)	
	★キャンプファイアー 高橋 (60分)		
	※スタンツやスキッツの	(19:00 (60分)	
	異なりも学ぶ	★野外散策 (天候で室内も)	
		(野外に関するQ & A)	
		～講師に聞く～ 藤野 (高野)	
		(20:00～ (60分)	
		★ミーティング	
		コーディネーター高橋 (高野)	
		(21:00～ 入浴	
		(22:00 消灯	



救急救護 [回復体位への変換] の実際



救急救護 [心肺蘇生(CPR)と自動体外式除細動器(AED)] の実際



キャンプインストラクター受講生・BU&C参加者と講師陣

《平成24年度内の今後の事業予定》

◆ PACK(神奈川県キャンプ協会)の集い(予告)◆

1. 日 時 平成25年3月16日(土) 18:00~21:00
2. 会 場 横浜市民活動支援センター(桜木町)
4階セミナールーム2
横浜市中区桜木町1-1-56
みなとみらい21クリーンセンタービル
TEL 045(223)2666
3. 主 催 神奈川県キャンプ協会(PACK)
4. 協 力 NPO法人神奈川県野外活動協会
5. テー マ 『市民活動における“野外活動の現代的意義”
～神奈川県キャンプ協会の活性化に向けて～』
6. 費 用 無料(NCAJ及びPACKの会員以外の参加も無料です。)
7. その他 NCAJ会員対象としてBU&C講座(10名程度)を併設します。(BU&C参加者は事前の予約が必要です。)
申込先:神奈川県キャンプ協会(PACK)事務局宛
メール:miura-m@aioros.ocn.ne.jp
FAX:045-253-4545
BU&C参加費 1,000円

PACK(神奈川県キャンプ協会)の集い 『市民活動における“野外活動の現代的意義” ～神奈川県キャンプ協会の活性化に向けて～』 開催趣旨に寄せて

神奈川県キャンプ協会(PACK)理事長
鈴木秀雄
関東学院大学人間環境学部教授、Ph.D.

現代社会における課題からの視点で市民活動における“野外活動の現代的意義”を俯瞰すると、4つの領域(①～④の下線部)に集約される。それらは:

- ①余暇活用の課題(余暇三機能のアンバランスに対する補正)
- ②人間交流の課題(集団人間交流形態の減少に対する補完)
- ③自然保護・環境の課題(文明による歪みに対する是正)
- ④健康の課題(積極的運動の不足に対する補い)

である。

また、野外活動自体の切り口から現象を捉えるならば、一方では、楽しさ(おもしろさを含む)を求めて実践する自己中心(時に利己)的な余暇活動として活動そのものに目的を持つ野外活動の形態と、他方、教育的、訓練的、社会参加・社会貢献的で、活動そのものに主たる目的を置かず、本来の目的はその先に有り時に他利的で手段としてなされる野外活動の形態に類別できる。

余暇活用の課題(上記の①)に対しては、市民活動として、山野の緩やかな散策(余暇機能の休息・休養＝回復機能)や多角的嗜好形態としての楽しい野外活動(余暇機能の娯楽・気晴らし＝発散機能)を広く提供することのみならず、自身の趣味化傾向形態に磨きをかける野外での活動(余暇機能の自己啓発・自己開発＝蓄積機能)を深く提供することも重要である。余暇の有効利用、余暇の複数機能の好ましい組み合わせや機能全体の融合を可能とした野外活動の提供は、市

民の健全・健康な生活の構築に役立つ。

さらに現代社会の大きな課題は、人間交流活動形態(個人活動、並行活動、集団活動)のうち、特に交流が必要不可欠とされる集団活動形態の減少から、人はスムーズなコミュニケーションを図ることがなかなかできない状況下にある。自然の中での野外活動では、時に人間交流(上記の②)を必要としない個人活動としての野外活動形態であったとしても自然との交流や動植物の存在による心の動きも生じる。例えば、野外での見知らぬ人達との小グループなどでの写生では、描いている時には、景色や事物をありのままに自身で感じ取りキャンパスに描くことから並行活動であり人間交流は制限されるが、それでも野外活動プログラムの工夫により、人間交流形態は発生する。その人間交流活動を必需とする集団活動を野外活動の中で構築すれば、コミュニケーションが必然的に生まれ来る。自然の中では、自らの成長につながる発見を促し、他者への優しい感性を育む機会も提供してくれる。

加えて現代文明は、否応無く人間と自然(上記の③)とを乖離させてきた。その結果として、公害も生み、自然破壊や、多くの動植物の絶滅も余儀なくされ、人間の驕りとも言える“自然は管理できるもの”との思い上がりは、先の東日本大震災(2011.3.11.)により脆くも崩れ去り、自然災害と共に原発事故のような社会(人為)的災害も生じてしまった。自然との共存、持続可能な自然環境の維持に対する学びは自然の中での野外活動(野外教育)により直接肌身で感じ取ることもできる。災害時における自然の中での野外技術・生活技術を有していることは大きな意義がある。一昔前の野外活動は、個人が有している技術を自然の中に持ち出し活用していた(これを輸出型野外活動と表して良いだろう)。しかしこれからの野外活動は、野外で修得した知識・技能を日常生活に活用し取り込む(これを輸入型野外活動と表して良いだろう)ことも災害時などの折には必ず生命維持に役立つに違いない。

そしてその文明による機械化や省力化、あるいはオートメーション(自動)化は、人間の健康(上記の④)にも重大な影響を与えている。人間の生活様式(ライフスタイル)は、効率的に生活しようとするほど、自らの体を動かす形態とならず、常に省エネルギー(省エネモード)化してしまう。積極的運動の不足は、世代を超えた問題を生起している。俗に言うグルメ(gourmet)も含め飽食の時代となり生活習慣の変化に伴い、幼少年期では体格は勝っても体力の脆弱化がすすみ、青年期では誤ったダイエットによる過食、拒食、偏食なども生じ、中壮年では生活習慣病が蔓延し、高齢者では平均寿命(量的寿命)と健康寿命(質的寿命)との差がますます拡大傾向にある。健康の三要素(休養・栄養・運動)の中で自分でしかできない運動は、地域における個人の責任として元気なうちから“運動の習慣化”が考えられるべきであり、社会における地域の責任としては“運動習慣の社会化”が問われる時代である。緩やかで長時間にわたる積極的な運動を可能にするのも野外活動の特質の一端である。一昨年8月に“スポーツ基本法”が施行されたが、この法律を実あるものにしていくには、国、地方公共団体、スポーツ団体、個人が、それぞれのレベルで真剣に市民活動としての野外活動も考えねばならない事柄である。

これらの多くの課題に対応する野外活動の現代的意義を市民活動での実践に“具体的にどのように繋げていくか”を、この集いで確認し、論じ合い、その議論を含め神奈川県キャンプ協会(PACK)の活性化に向けた事業を新しい年度に展開したいと願っている。勿論、この集いへの参加は無料である。会員及び多方面からの市民の参加を期待したい。

編集後記【ニュースNo.7】

あらゆる機会を捉え多くの局面で“先が見えない時代”と巷間では長く語られてきましたが、昨年12月の衆議院議員選挙では、まさに一方の政(権)党から他方の政(権)党へと羅針盤の指針(民意)が大きく対極に振れました。これからは政治の世界でも、“先が見えない時代”と多くの政治家が考えるなら、逆に国民にしっかりと眼を向けた本来の優れた政治のあり方になることを期待したい。

誠実に、まじめに、人に優しく、自身を律し、陰日なたなく、利他主義的にどう生きるかなど、“先が見えない時代”にこそ、自身の羅針盤を狂わせることなく、正しい方向を見定める力を求めたいと願う。

会員皆さんの闊達なご意見と積極的なご協力を得て、本協会が進むべき道を確実に歩むことができる一年でありたいと年の初めに切に願っています。

【PACK理事長:鈴木秀雄】

神奈川県キャンプ協会(PACK)

Prefectural Association of Camping, Kanagawa

NEWS No.7 January 15, 2013

from: North East West South

発行日 平成25年1月15日

発行 神奈川県キャンプ協会(PACK)

〒232-0022 横浜市中区高根町2-12-7

TEL・FAX 045-253-4545

発行人 会長 小林新治朗

編集責任者 理事長 鈴木秀雄